

依
証
書
白
糸

中村俊定文庫
文庫 18
762



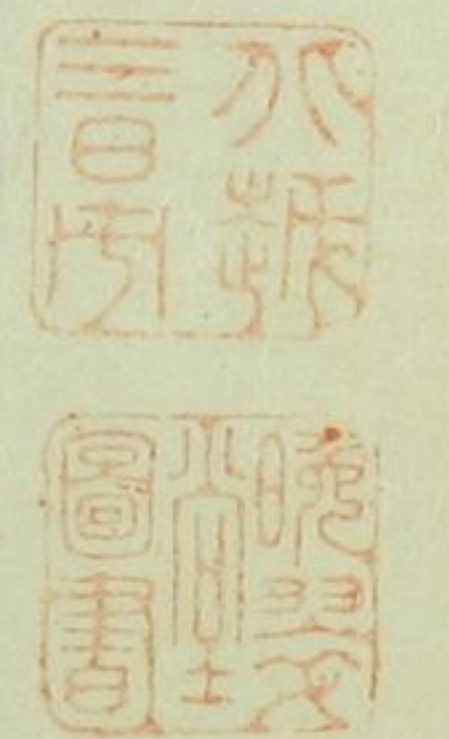
○俳諧八重垣 俗醫水基 小中三冊
 後る俳諧の仕中ノ六義六種の状曰昔々辛辛白
 法らく句式ノ等歌ノ如きをいゆるの状ノ秘傳秘法ノ
 仕換てよえいふつゝの即字の秘傳の付合を疑ふ
 こと合の書を要致集つゝは分は二重ノ重ノ重ノ
 年中垂々其の非狀四ノ故事論歌といふるまを
 不談集の旨く二門部をまけ漢字の詞をいふる
 まうりいふたあといはれをいふ其外事空を海に
 分たを歌を集む俳諧秘法書といふなり

古
 七年記云々
 其末其角唯然支考をいふ所行人の筆
 記并文週等ありきと進め給ふの始末と
 何れか其書を其録なり 此書人に給ふ末の
 書句を一人一方にりきし書編次す



俳諧 高白糸叙

此書の五々をいふはさういふ俳諧師の如く
 乃句く我撰りて存録す其末の意をいふ所の
 つまひもいふはさういふ俳諧師の如く
 其書のいふはさういふ俳諧師の如く
 白糸の題せしめ其意もいふ所のいふ所の
 ありけりいふはさういふ俳諧師の如く
 其書のいふはさういふ俳諧師の如く



文化末のし

屋島散人



○俳諧八重垣 俗醫水著 小中二冊

後有俳諧の仕中○六義六種の扱○首句辛平白
法らく句式○等韻少歌なしくぬるの扱○私撰藤台の
仕撰○てよえいさうの即字の無備○付合志疑を
よと合の忠告を要致集つへるは少しはまらう事○以
年中垂まきの新撰四の故事論歌
不強集の削くよ門部をまは
まらうがたあといは
ぶれたるを

公羽反古

全二冊

世書と文録七年迄心くわし裏の日記あり
去来其角唯然支考をわし新訂人の筆
記并文通等ありきき進め給ひ鳥の始末と
わらわしきる事録ありきき人に給ひ末の
巻句を人一方はらきき新編次す



俳諧 高白糸叙

此本の五々をみかきしう海能侍郎の娘の歌を
乃句く残撰し奉給りし糸の名をて海の
つよ世もも能多る六出能風に肩投ぬる母
を能の傍りしうあし二の白乃刺志し六ありぬ
白糸の題せしめ其ありしうも流る過き
海り能しめしめかきしう相れしうせしめて
書子、世書に流してみ流し六ありしう志す



文化末の

屋島散人



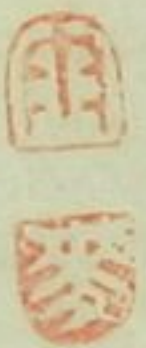
○俳諧八重垣 俗醫水基山本三冊

後有俳諧の仕中ノ六義六種の故曰首句半白
法らく方式ノ等敷少敷をくぬるの故ノ私撰願分の
仕換てよたのうつひの切定の無情の背念去疑之
よと合の思を委發集つへらは分は二重うき、以
年中垂き平林歌四ノ故事繪

二冊

平林

Handwritten notes in smaller characters, possibly describing the books or their contents.



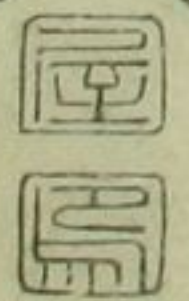
俳諧古白糸叙

此糸の五らそ糸かつら海能侍郎の姐と数多
乃句く我撰く巻終了糸の糸くして海の
つよ世も能多六糸此風に肩役ぬり母
そ候に傍りもあふ二る白乃判志く六ありぬ
白糸く題せぬ糸ありも糸も流る通き
海に能くあふかから糸く糸くせうて
世子、世子の流してみ流く糸く志り



文化末の

屋島散人



出句地名

豊前 中津 豊后 別府 岡種 田窪 崎松 岡三 佐原 浦
萩原 湛水 胡ノ蔓 賀来 白杵 佐伯 肥前 唐津 淵ノ上
松浦 筑後 大村 雲 刃 廣瀬 母里 伯州 米子
三崎 作 劬 勝山 新庄 長州 寛ノ関 室積
播州 姫路 河内 富田 林 大井 大和 高取 竹ノ内
摂列 高槻 尼ヶ崎 備中 新見

以右十三箇國三十四處

此句ありては 抄に云ふに著しん此の通故
豊后の杵築の秋有書やまゝの浪弄あり

之巻秀逸

船くわ水うりも秋葉乃雲 六々
一日乃りのうら白尾木 樫る春 桃洞
思ふとこゝろ葉梅となりふく石 古樂
やはれも 鴉を去るとり秋の川 亜草
船ふ乃さくも刀と形をうりくを 別府 可秀
世のせとつるを梅のあゝるか那 豊后 佐伯 馬月
三月の風あゝるそ床よりら 別府 赫々
秋のしめとあゝる 等うらな 羅文
くさる又くさる木 樫のまゝくさる 雲州 米子 冬 曠
こゝろのちゝに 咲よ 秋乃子 佐伯 恒 雄

ささげとめくまねな牡丹を
 梅をよき空ひらきふ咲れり
 藪入るあかけくちり小松うな
 けしきの爪つゝ障子ひらく所
 手紙捨て宿るゝ鳴乃夕か
 るゝををさうさうをゆゑる鳥
 夕立や指すゝりゝ子乃月
 芒葉く家乃見えてお鳴のこ
 一房よ露ひとくさ乃蒲萄哉
 梅もさうくみきと咲きや薄うさ

季子 五葉
別寄 周木
河内留田林 燕之
豊后守目 帰白
季子 亜来
 可秀
 恒雄
 亜来
佐伯 栄枝
 其一

秋乃夜のかさゝきさけし露な
 朝日の昼うゝひゝく思えん小
 松柏をえゝまゝく秋の雨
 二三丁そらわねねく露もくろ
 荒もふ麦乃おそやわゝるゝ
 見よとや家木ふさかろゝ乃家
 白ふの菊のくせあり小紫垣
 水涸て鳩の売菓の石ゝはく
 見かゝれんその静くゝ帰るゝ
 名後の笑ふ歯の根も合あなり

季子 周木
季子 倭風
佐伯秋園改 月艸
 束芦
 指目
 竹童
 可秀
佐伯 周木
 桃秀
備中新見 三世

家屋のあはれとてしるるる乃山
いよひさよと生洲の氷のしるるる
まの鶴又鶴のわし東て並ひる
葉の花乃黄もつるあり繪うる
片隅ふりや夜空乃の燈る
毎雷は火を打菴岩おしる
とて更入る鳥乃踏れくる
功を成業ふしふく草しる
舟にちる水すく秋とちるる
初雪やとてよめくはるる

三
五来
巨川

豊后萩原
同
三佐
入 樵

廣瀬
闌々

羅文

指月

滄巴

林糸

周糸

馬月

卷
軸

芥子乃花雪る雪相をたぐりく
二月何とあしめやぐり雨乃秋
傘さして植の仕る春の人
ほろろ乃々世々々鳥のささり々
雪の空静お細をとれ々孝
のろろふはけても彼乃臆る
さつらあ町るるいりりおゆる
さゆらや々無もあさり秋乃蝶
更菴乃あく人て見る者言ひる
火ともして人さるるあまのりさる

其雪

倭風

浪文

亜草

五葉

闌々

錦江

都雪

恒雄

玉水

聖山廣瀬

別府

佐伯

羊子

秋山高可

福米評

日の暮て伏家乃更ぐ一花里哉

冬曠

西月乃舞ちくくく温盤そく

栄枝

娃子や流れぬ多乃尾のいあり

全

松風々吹くくくく松奇くを

夏連房

そく子や花くくくくくくく

竹母

白魚やあれ群乃日雲をより

三顧

海く水おおくくくく雲乃峰

冬曠

片立おおめてかきむの鳴

歩月

録れ家乃人お火をくくく手小

芝雪

押多て人のくくく門柳

桃秀

山古の夕也を拾ふお葉くを

三顧

さく火やをのく露ゆやくあり

恒雄

みぬ乃雪をるくく白木槿

其仙

菜かひくくお出くくくおくく

林糸

あく人の木立りやくく菴の冬

燕之

さく紅のくくくくまふかれく

滄巴

美くい下誌をあくくくく雨

冬曠

身くく山未練の起く命く

里月

黄鳥乃猶くくく山家小

芦舟

山くく岸くくく清水賣

不及

芥葱ニイミの四月の園ニイミのふいふ中
 飛来
 ぼろぼろのこもろニイミのふいふ中
 冬曠
 青ニイミのふいふ中
 寫月
 梅ニイミのふいふ中
 全
 笑ニイミのふいふ中
 全
 片ニイミのふいふ中
 恒雄
 澤ニイミのふいふ中
 全

雪ニイミのふいふ中
 三世
 妹ニイミのふいふ中
 古樂
 多ニイミのふいふ中
 恒雄
 あニイミのふいふ中
 不及
 山ニイミのふいふ中
 竹房
 木ニイミのふいふ中
 排秋
 菊ニイミのふいふ中
 倭風
 獨ニイミのふいふ中
 寫月
 面ニイミのふいふ中
 古樂

縮つる乃らりら〜起風 ハキハラ

秋西の〜不足して撞く 唱 其一

昏ろろ乃黄鳥をよる不付也 ヨナコ 艸稿

晦々を身きたぬ ねりりか一里真 金扁

舟にさる〜 昔か〜浦のちるる 豊后岡 林糸

紫陽花のちるる 色ふさ〜 嵩二

いやく〜 出る山 雲 亀方

秋のぬる〜 先も忘るる 三世

乃雪の氷お落れ〜 河國 排秀

炎天や黒くもた〜 蝶乃と〜 燕之

落〜 水お〜 秋のゆく 別存 狎彦

河極鳴〜 せぬ〜 夕秋のちる〜 六々

切風の葉お熱く〜 堅松 冬澤 モリ

細る〜 瀬のちる〜 二見か南 倭風

夕ふゆの〜 花〜 赤あ〜 草稿

〜 秋の山お紫〜 おと〜 ヨナコ 五葉

〜 小年の〜 哉 別存 可秀

鶏の唱 延〜 錦江

雨の雁乃片〜 紫暁 サイキ

若鮎やの〜 都雪

巻軸

巻首

百嬰評

石立鳥鳴とらるる山きく声

古樂

二人〜指首ひり 栞野うら

ヨナユ

亜草

因西のころ面こよ 益乃身

サイキ

恒雄

舟の矢乃波を流ゆ〜雨

亀方

蔭く松子泣き〜

写月

丁き〜日の影志野山江うき

豊后原浦

以貫

思ひ〜花

五葉

風の吹る〜鳥、那

錦江

待音や〜草の〜

サイキ

月草

〜灰の鼻ふ〜冬、雨

指月

三之巻考述

秋の暮る 片葉投る 侍 羅多

羅文

合鳥〜〜給よ〜津の山

朱子

五葉

〜音さ〜聞字ま〜女香の音

三佐

龜方

宿と〜て〜居る 入日小

朱子

亞山

原〜さの 邪々 侍中〜

別府

錦江

紅雲や 先人 東よ〜 おりひ〜

佐伯

龜旅

鶺鴒の 尾〜〜 董々

新見

三世

鐘の 鳴る 彼お 智恵 底の 穴小

富田林

燕之

蜀魂 本質の 安を 二階 多

羅文

き〜〜 調心 本槿 小

亞山

雪の戸や疾風下て秋の風 竹舟 其雪
 青鷺や向ふ歌なき 米子 倭風
 この頃ハ蝉あゝさる 佐伯 其一
 山さすらしふ日の暮て 肥前松浦 峨々
 ふるや思ひ出さる 豊后植田 湖外
 十月の菊朽し 豊前中津 吐屑
 八羽や人煙 佐伯 恒雄
 野の梅乃常 豊后臼杵 南溟
 雪案の片足 全

鳴るるも 左 衾 竹舟 竹舟
 青梅 左 酒の通 羅文 羅文
 去風と 左 人 南溟 南溟
 ちの戸 米子 十兩 米子 十兩
 紫屋 ヒロセ 藤蘿 ヒロセ 藤蘿
 松尾 別府 赫々 別府 赫々
 大ちの柱 多岐 林糸 多岐 林糸
 盆の市 佐伯 芦舟 佐伯 芦舟

雨の日の雪あやめよ梅の義 佐伯 都雪
 新しういひて鳴る市月の丁 三佐 入樵
 如月やさうらの夜のねりろき 筑後生葉 四柱
 疎しこの雪を案じて庚子より 佐伯 虹橋
 夕花友のさうりあるも秋の雪 伯州三哥 湖水
 萩さきさきゆふのくははる 別存 羅文
 憐やのゆれくみる糸は 別存 挑洞
 引路の末の松山さうり 昭前唐津 壺罍
 萩の義四五名ちも 豊后墳末 鶴負
 留業を言枝交の青田 三

巻軸
 ろろろの梅よさうり 佐伯 写月
 りさささゆきさうり 根高櫓 羅文
 涼しやと本新し ヨナコ 哥捨
 大坂の入口 ヨナコ 亜来
 門板ま 佐伯 入樵
 船の揺 植田 月中
 雪とねる 三佐 其仙
 虫のさ 佐伯 霧削
 秋の雲 佐伯 一峯
 杜若水の位 林系

巻首

田抄評

幽やや霞く吹て相一葉
 知さる奥歯のいひ日なりく
 美ちて青海若貫く一尺り
 寧ろの夜や目あつひらの垣つ
 後まゝ復書の意を脱きく
 かしらる日く昔美とあるお
 さしとと非吹せて秋ゆ
 去丁にゆい出てある手燭
 面白き杖つるくある菊
 形録の尾ふくくある草
 三顧
 南溟
 冬曠
 羅文
 飛来
 南溟
 龜派
 羅文
 娥々
 三世

抽

冬さゆの言うさるる石
 雪うアうおかまうかこなる
 葉撥乃打てうへる暗さ
 ちふしてある置おれま
 八月や和告うせらのひ
 秩し神不聖の末あり
 其のおを思ひ回して
 けさき入付て思や
 偷むもをふふり
 火もちし花のふへる
 倭風
 亞料
 伍尺
 芦江
 壺山
 南畝
 湖水
 台樂
 亞来
 南溟

ヨナニ

ヨナニ

別府桃洞改

サイキ

ヒセシ

カチ大井

ヨナニ崎

ヨナニ

ヨナニ

ヨナニ

ヨナニ

ヨナニ

ヨナニ

至るもの 扱雪の 端と思ひたり
 情盡の中にも 出て 復の雲
 秋風や多く 夢よき 泥くこ
 鳴きし 小カをそ 船日小
 つふやめて 故きよ かく 母々を
 片の 毒く 押して 画をく
 天の 何さう 白く なる 山
 井戸 堀し あり 山 吹の 吹て 石を
 人住ぬ あり 雪の 敷く うち
 夕風 吹く ころを 下り くる 糸瓜 瓜々
 羅文
 倭風
 蛾々
 可秀
 竹母
 紫暁
 冬沢
 芦舟
 三世房
 三顧

偽の 展く 乃る 一 くれりな
 以 秋の には 雲を なる 濱の 松
 秋 ころの ころ 花 きたる 夕か 菊
 雲 ころの ころ ひと あり 板角 力
 よう 川 代の あり あり け け け け
 稻 づき や 志 きたる あり ちる 芒
 名 月 も たり 僅 あり あり 一 羅
 昔 ころの や け け け け け け
 糸 の 雪 大 き なる あり 三 川 あり
 有 ころの 又 ころ 雪を 映 きたる
 飛来
 三竿
 其一
 八千歳
 祖彦
 伍尺
 其一
 八千歳
 羅文
 其一

巻袖

フシコ七瀬川

夕ろふみあか黒髪のかママクク布
 湖乃 橋を 弓くめく月の長一
 雪る下下可おちち家カ刀ウるる
 ひひららおおゆゆ白白くくははくくももららひ
 天の何はくく親親乃乃くくひひるる
 牧の聲の中中くく出出るるああつつき
 長閑ままややきき打浪ももおおののうう
 撞の言言小小流流引引てまららるる香香叶叶西
 山の梅の花花はは雪雪の雪脚脚

伍尺
 八千歳
 垂艸
 竹母
 冬沢
 里光
 錦江
 紫曉
 壽樂

秋秋你你きき親親ららははれれるるるる筆
 けけをを水水ののままららううすす一一乃乃川
 秋の田田おおままききをを乃乃 袴ウ 乃乃な
 朝朝ももやや松松毛毛吹吹ててきき鳥
 早早崎崎のの朝朝明明一一てて五五月月 雨
 三三豆豆出出てて雲雲おおちちるる乃乃浪浪のの家
 煙煙もも言言ううああるる乃乃秋秋乃乃夕
 去去待待きき乃乃理理ののよよいい山山家家は
 鳴鳴らら招招のの生生のの鳥鳥乃乃耶
 麻麻植植てて乃乃鷓鷓鳴鳴らら乃乃乃乃乃乃

羅文
 林系
 土葉
 其一
 覽之
 周禾
 羅文
 飛来
 其仙
 羅文

在園植田

夕暮子 松のこころをくくく

美しう松咲くくくく の 雲

陽あけ 庭くく 雲の 星 さくさ

あもて 立ちく 見ん 秋のこころ

あしーの ゆふこころに おのけ

あさいろ 雲を 出る 旭 取

乙くまの 余お目くくく 山

五月 晴 雲ふ 位を 是くくく

かろくまの 一振く や 音くく

大くーの 三三の 山子 かねくく

嵩二

羅文

田栖

榮枝

絹虎

田栖

富丸

南湟

化笛

古樂

羽力

眉上

寫月

帰白

藤蘿

周未

眉上

林糸

林糸

夕暮子 松のこころをくくく

美しう松咲くくくく の 雲

陽あけ 庭くく 雲の 星 さくさ

あもて 立ちく 見ん 秋のこころ

あしーの ゆふこころに おのけ

嵩二

羅文

田栖

榮枝

絹虎

田栖

富丸

南湟

化笛

古樂

羽力

眉上

寫月

帰白

藤蘿

周未

眉上

林糸

林糸

法井筒 祝けし 秋の 河國を
富田林 芦江
 舟の やさしき 舟を 舟に 舟に
ウシマ 立葉
 片町を 豆腐の 舟の 舟に 舟に
ヨナコ 十雨
 若の 義 滝の あら 舟の 舟に
豊前津 吐屑
 さあしと 舟を あら 舟の 舟に
モリ 冬曠
 杜の おもい そあらし 雲の 舟に
竹内 其雪
 暮さし 舟の 舟に 舟の 舟に
 秋の 舟の 舟の 舟の 舟の
恒雄改 自曉
 さあしと 舟の 舟の 舟の 舟の
 紙まの 舟の 舟の 舟の 舟の
 冬色女

油
 波舟の 柱の 舟の 舟の 舟の
宇巾
 鳩の やさしき 舟の 舟の 舟の
桃秀改 冬秀
 さあしと 舟の 舟の 舟の 舟の
ヨナコ 浪文
 下園の あら 舟の 舟の 舟の
別府 伍尺
 畑の 舟の 舟の 舟の 舟の
写月
 鹿の 舟の 舟の 舟の 舟の
芦舟
 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
吐屑
 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
羽力
 山さしと 舟の 舟の 舟の 舟の
夕カッキ 哥撻
 人中、向け舟 舟の 舟の 舟の
藤蘿

雨をぬくもくもくやきりし

夕もなほきりし内田うな

梅さくちりし仙のそら

玉極やはめさきりし風うさく

志願越しそは信とちりしうり

冒言あふ雪あら山のうり

あんとくく日やうめはきりし

初うら騒波うりたの角

やと板人呼えそちりしうり

油伸のそり旭のぬやをきりし

三顧

古樂

芦舟

嵩二

月草

十雨

自曉

林糸

尺城

羽力

田柘改

露海

ヨソ

亞来

露海

眉上

三顧

倭風

吐眉

束芦

富士尾

龜派

山さそや雪の中うりかきはち

手ら丁のついで福やうり

大ら菊やさきりし人乃中

五位鳴やちのうりあきり

二夫一てぬるうりうり

としてやお解し交ふお目し

根待り尺はあきりし白鷺か

精きり三百つめて秋ゆき

サレキ

ヨソ

古舟や碓よおほふ宮の色
鶉ちくねおや土臭き雪の菴
山荏の松くくのそく茅の掃江
雨とあふ約束しるる牧草か
あ鳥のあををまねて表あふ
まの鳥や馬も喧は餅のころ
駒近ひ舞て大津の月おは
秋まやうさうそをるふもの湯守
鶉路まかふ。復り雪々神
楢は戸の歳おかきものそく末

龜方
自曉
冬色
露海
紫曉
台樂
其一
秋秀
羅文
一芦

白濱やあふきまきくをほらまは
幸崎のおを降さぬさ月か
はたろくの鳴た日うつる戸はる
か二折あふや山路の鶉路集
五月庵の傍を出一り市下る身
まをしは佛のめりにあううく
かあふの腹うう出く市をるりや
お給とくをうはるるふみか
船けやあふハ様子知るるふ
鴨の子乃お撥おまらう秋は

湖水
一芦
月洲
几雲
眉上
倭風
飛来
好言
虹橋
五葉

ニカキ

唐津

ビセン加長

サヒキ

ヨナ

其の八 桂の老る 扱るるるる
 柳交うらう 董う 出るる 土困 下
 おもゆるや けりある 本いなる 扱
 揚うらうを 打はきあて 忍る 芒うら
 大ちの 鐘のうらうらや 兼本 権
 初花や 拾理 一まきひらる 家
 本 兎も せり あり けり けり 身を 鳴
 煤 掃て 詠免て あり 旭うか
 人 夢を 牛之 けり 略ハ 略の けり
 猿 曳の 体て あり 橋 うら
 冬 澤 冬 曠 虎 旋 三 顧 一 度 露 海 山 旭 蘭 什 覽 之

夕さぬや 人の 鳥 忍て 鳴の けり
 老うらと 先 忍ひらう 大根 けり
 こゝろ 忍て 忍れ あり けり 鳴 蛇 けり
 垣おの 袖の 兼 芳うら あり けり
 美いけり あり あり あり あり あり
 之 秋の 仕 あり あり あり あり あり
 あゝ あり あり あり あり あり
 庭 あり あり あり あり あり
 冬 秀 羅 文 其 仙 芦 江 亞 草 以 貫 全 羅 文 秋 秀 語 交

卷 軸

卷首

羅文評

柳うき葉清心の出来ふり布
 何嘗やちかぬあに池の川
 藤を引たせ海老と二膳身
 山吹も忘れりて清あふゆ
 五月雨の後を出一つ廿日身
 カキまきわたるるの秋をりり
 院うらとるるのまき一閑子も
 夕川のあふ鳥に秋の雲うら
 きるもいひ佛のめりに雲うら
 うま子を願うて懼るる也

袖

カッ山

倭風

不及

霞耕

倭風

眉上

紫曉

几雲

自曉

倭風

里翠

七之巻

三日身を暮るり柳うき葉うら
 二百も月も白く牡丹うら那
 冬かれ乃通をまきあり文字う那
 大木の隅うらあつたまきゆう那
 批燻してまきゆうて居る多物う那
 ぼのぼき雲うら人あふまき田う那
 和月のあふもちかぬ更了りう那
 鈴を方入中をまき出た餅うら那
 まきゆうのはい柳うらも出たまきう那
 宿葉う柳うき葉うら日傘うら那

眉上

壺轉

月洲

出山

羅文

乙武

亞来

芝雪

飛来

出山

出山

木々るま又鳥はくあり結のあめ
 世の中よりあふりのよを生海龍の
 初松魚沼を出てくちおきをか
 晒井をを現けし眉のうきく
 岩も東よきくきよのいぢひかり
 粥杖ふくくくくく井はく
 出作やあつちあき女 啄りう重
 さ一箇より塚くくくく大ユウ
 くらんくくくくくくくくくく
 順禮のくくくくくくくくく
 其一

亞来

小夜秋

寫月

亞艸

一聲

林糸

阜菊

五葉

全

其一

巻袖

一しんれ 濡きるんまら 尊あみな
 きの戸子 長刀くくく みる乃集
 空梅のくくくくくくくくく
 岩ふりくくくくくくくくく
 花の雲くくくく 踏くし 通るくく
 松山乃あうくくくくくくく
 船あふくくくくくくくくく
 秋空くくくくくくくくく
 秋乃くくくくくくくくく
 月洲

圭々

羅文

伍尺

湖外

芝雪

圭々

富士丸

伍尺

乙照

月洲

巻首

芝雪評

眉上

夕暮のやさしやうと暮家たの月

防州室積

杜從

鐘のたうりもりもく秋の夜響

岡

出山

大吉の陽さすおきてたをた休るを

オヒキ

飛来

走りゆくはくまのほく路中が

露月

思ひ切るるをこころをえ 猫のこひ

大井

龜流

二首集あはれをささるる乃鳴る形

八井田

南畝

経たや閑のひくもを鶯乃の

ヒロセ

可柳

すらしとあをけりなり夏の身

孤舟

油

白引て怪ぬめをほくま

五葉

船くわろ 咲 花うら

在岡ツルガキ

蘭什

梅うまをゆきよけ 舟乃らうま

ツカトリ

林糸

三日舟乃ぬれくまのりかたて

オヒキ

紫曉

毎日の世をあらう木 種うま

ヨナコ

浪文

昔の世を常ゆきくまのり

東芦

ちくちくあをあらう 吹く盆乃中

別府

赫々

花ものたりくまのり

カツ

其流

消炭すくぬきくまのり

宇巾

ハ 影をくまのり 白くまのり

ヒロセ

闌々

秋の日は花のはくまのり

フシ賀来

霍負

初丁乃目由子... 羅文

この夢の心して... 峨々

船を方へて... 藤蘿

舟を舟へて... 亞艸

舟舟の舟へて... 可秀

大七舟知... 露海

舟舟を志... 吐雲

降雨を... 富瓦

秋の夕嵐の... 羅文

雲と松乃... 亞来

舟の家乃... 亞来

稀は下... 赫々

淀川や... 其流

きのふの... 亞艸

嘆あふ... 八千年

蜀を... 芦舟

昔又入... 紫曉

この心... 一夢

まきの... 化笛

あふ... 月艸

海日の雨をのこ〜〜〜〜〜
別存 富士丸
 かもほをほふあ〜市 賦 月
 懐子〜〜〜〜〜 雨の〜
 煤掃〜〜〜〜〜 秋の〜
ヨナ 倭風
 又〜〜〜〜〜 秋の〜
 秋〜〜〜〜〜 全
サヒキ 芦舟
 鐘撞〜〜〜〜〜 八千年
 主〜〜〜〜〜 全
 雀の〜〜〜〜〜 全
備前カモ 羽古
 十六〜〜〜〜〜

巻軸

土の〜〜〜〜〜
サヒキ 三顧
 落〜〜〜〜〜
カラツ 小夜秋
 十月の〜〜〜〜〜 雀負
 冬〜〜〜〜〜 束芦
 赤〜〜〜〜〜 竹母
 枯〜〜〜〜〜 宇巾
ハキシラ 以貫
悲水 年々
 瓜ひ〜〜〜〜〜 八千年
ヨナ
 暖〜〜〜〜〜 全

富士凡評

し秋のあはれゆか指く那

白川乃閑くくくくくくくく

紫霧のちくくくくくくくく

那白もあつくくくくくくくく

ハカのわらわしあり夕きぬこ

いさひ乃容あつくくくくくく

有るさぬさくとあはれし自あつ

秋さゆや又くくくくくくくく

初夕のみのくくくくくくくく

社
あつくくくくくくくくくくく

古樂

好古

駒石

露海

古樂

月抄

峨々

自曉

梨水

宇巾

牧のありの中よ削らぬさくく

ハ秋のともりよあつり微く

名をかて表をかきくくくく

十月の屋ふたりくくくく

新秋あつくくくくくくくく

本地山や橋もさくくくく

さくくくくくくくくくく

今くくくくくくくくくく

あつくくくくくくくくく

あつくくくくくくくくく

カラウ 小夜秋

マツラ 峨々

ヨナコ 五葉

竹内 其雪

ニ左 亀方

ヨナコ 亜来

竹母

カノウ 乙照

新見 三世房

羅文

風名しるものよきかてまきやまきよりり
 秋あしにゆりーのあつる四月うな
 夕月子サザーもたつらぬほつんが
 戸をぬきさひよまあるつ田うな
 堀のまぬとつらうへ婦人
 夕月よき各々人ぬきと葉りりり
 まのま教の柳よまをさつりり
 飯けは江戸よき人のあつらう
 飯への島よきまき旭う那
 羅文
 三顧
 十兩
 十年
 南畝
 蘭汁
 小夜秋
 其雪
 一聲
 三世房

蓮の葉のいろり飛やう日のまら
 麻外て郊のたうりうんゆらちり
 寄るた人をあつらて持ちま
 沉丁美あぬかやうぬう不ひうな
 板あつらーこれの中のをもちうか
 茶の毒よ雀のつらうそやうりりり
 巾きん極の本思む夕う那
 秋雨や捨とまらりの猿う那
 二階う風のまらおそ丁の那
 峨々
 其一
 宇巾
 三顧
 燕之
 ル雲
 秋秀
 古樂
 尺城
 羅文
 三顧
 十兩
 十年
 南畝
 蘭汁
 小夜秋
 其雪
 一聲
 三世房

鬼灯や鏡^ミつ^ツつ^ツ 椽^ノの^シえ

原浦

以貫

十月や糸^ハふ^ハや^ハなる^ハの^ハ山

亞未

菊^ハ入^ハや^ハ郊^ハの^ハ葦^ハを^ハ袂^ハと^ハ金

繡虎

山^ハも^ハ望^ハく^ハ見^ハく^ハり^ハ松^ハく^ハり

ナヒキ

三顧

三月の毒^ハの^ハう^ハは^ハく^ハぬ^ハ神^ハう^ハく

栄枝

ち^ハも^ハあ^ハら^ハぬ^ハち^ハう^ハく^ハり^ハ纏^ハく^ハり

吐雲

神^ハ居^ハの^ハ紫^ハの^ハう^ハを^ハを^ハゆ^ハく^ハ夕^ハま^ハり^ハな

周馬

燕^ハも^ハ知^ハぬ^ハ菴^ハと^ハか^ハき^ハは^ハく^ハり

十兩

け^ハの^ハ流^ハく^ハ例^ハく^ハり^ハ雲^ハく^ハり

羅文

け^ハも^ハき^ハは^ハ水^ハより^ハふ^ハり^ハあ^ハの^ハ言

ナヒキ

虹槁

け^ハも^ハく^ハり^ハの^ハけ^ハく^ハり^ハく^ハり^ハ大^ハふ^ハ家

自曉

お^ハの^ハ目^ハも^ハお^ハな^ハい^ハく^ハり^ハて^ハ嘆^ハ木^ハ槿

ナヒキ

復秀

ま^ハま^ハや^ハ際^ハま^ハあ^ハら^ハり^ハ四^ハ裏^ハあ^ハく

秋秀

飯^ハ抄^ハに^ハ新^ハあ^ハく^ハし^ハと^ハ月^ハあ^ハら^ハる

作州西川

柯笛

市^ハ中^ハの^ハ葦^ハを^ハま^ハり^ハよ^ハ曼^ハ橋^ハ砂^ハ集

其流

ま^ハの^ハふ^ハか^ハい^ハ葎^ハふ^ハく^ハさ^ハい^ハく^ハり^ハを

亞未

四^ハの^ハり^ハの^ハ星^ハを^ハま^ハり^ハと^ハなる^ハけ^ハの^ハ袋^ハう^ハを

ナヒキ

紫曉

有^ハ明^ハや^ハま^ハの^ハま^ハり^ハと^ハた^ハく^ハ喧^ハ例

冬色女

去^ハつ^ハて^ハあ^ハら^ハぬ^ハぬ^ハ秋^ハの^ハゆ^ハり^ハを

ナヒキ

湖外

撮^ハ得^ハよ^ハ蒲^ハ萄^ハの^ハ舌^ハか^ハを^ハく^ハり

里光

油

雪の影松もあらしもなかりたり
 こころもさしぬよ菴のかきほくこ
 そののまを帰して夏ちり
 柳 ちりりへよ白き尻戸にうま
 柳をのつねさきうてたしめ
 隣のほよ片角よけて帳午
 相ひと葉の風のさしもあらしあり
 櫓とや門や十おのあらし和
 雨さきさき思ひしりてあらし水際
 和 山さきさきあらしやうりあらし

乙照 竹母 可重房 橋仙 五葉 眉上 橋仙 亞来 十兩 錦江

月と日の雲もかきふ木 撞りゆ
 ちりりや舟のうしろのまのま
 秋とれたさきもも麻のしりり
 繪さして柳のまをさしりり
 連勢ふ男をひねるさきりり
 さきさきとさきさきはさきりり
 八月の月もさきりり
 秋のしりりさきりり
 ちりりさきりり
 やりりさきりり

龜方 自曉 羅文 倭風 嵐吹 父山 羅文 芝雪 倭風 亞来

さつと火の舟をさるる 復る那

小夜秋

ささきくをさるる 兼八日さるる

中津

吐屑

おしきのあめしし ちる 乃尾

柳丸

おとれしと鳥さし 延て丁のあさ

壺山

晴手橋をけし 柳舟日よるる

カラウ

其流

二り月 桂のさるる けりあり

羅文

お秋をさるる 秋のあそび

倭風

村さしや 雲屑さ 蝶りけり

羅文

一廻り山さのまや ちる 春

伍尺

ささきくをさるる たりり 秋の月

自曉

まのせ 秋のさるる へをさるる

富上丸

十月の風さ 吹てし 青木さるる

十兩

写捨て 雲 影をさるる けり

写月

手袋のめ 秋のさるる へをさるる

倭風

やふのねをさるる けり 急きさるる

亞艸

おとれしと鳥さし 延て丁のあさ

芝雪

おとれしと鳥さし 延て丁のあさ

写月

面南さ 吹てし けり 鶉さるる

写月

美芝 けり けり 草をさるる けり

羅文

よりのさるる けり けり けり けり

羅文

油

如哉

卷首

籬峰評

一聲

おろくも秋をくけたり炭俵

白梅の奈おちちやふお秋

経秋の早くもあけぬ暑うい

多紗の癖うはくちり勝月

復好ふふ久の看板かきりり

植出しの仕合見きてりふの舟

一しつと秋のうらうらみうら

そこれのものよかうらうら

その梅あめあけうらひり

そ露のほのうらうらうら

止加

町中ふ俗のうらうと飛ぶはを

あそびまはる山吹乃実あう

位よりのうらうとあそび

美あやえ杜あうとあそび

あそびふゆれあそび速うとあ

明たやあそびうらうとあ

露うらうとあそびうらうとあ

如山平一極振うとあそび

あそびふゆれあそびうらうとあ

ナヒキ

ヒロセ

挑秋

嵐吹

羅文

里光

竹母

周馬

可秀

亞来

別府

福米

百嬰

露海

立巢

菴十

羅文

芝雪

富士丸

九山

田柚更

本指子凍乃作やうき板家か
花開し端のひらきも巨燵る

東也
屋烏

こゝの御家のなごころに授あかり
まの色の縁十まをうたてまを境
こゝの月入も又このまの一助あらんや

五竹菴選

蓬萊うねり〜〜の面うね

兼原
舟友

天叢のあふもかきぬて猶うま

芝雪

穴詰めめれあ〜〜やゆき〜

澤芦

海美〜〜轉をうらむき丸きか

化笛

一夏澄ゆ〜〜入海た山もな

叙四

空をよや引張さぬて子代も強

姫跡
芝系

指〜〜るのたひ糸子〜〜怪の〜

呼春

相の本うさとき写らきあて初月扱

廣瀬
園々

百姓の舟あつて指れおひ回す

百瀬丸

舟ち〜〜る葎らゆれ〜〜た〜〜あり

義濃

其日菴全

尖角よく小指を曳〜〜子のぬが

化笛

さね〜〜集さ〜〜雪か〜〜お〜〜のむめ

板栗

引指のさほ〜〜雪と〜〜り〜〜り

赤後
笑葉

曇ら〜〜の体〜〜〜〜り山さ〜〜ら

尾
舟人

園のよみ我燭ふる佳れほくきん
夕とれのみのくくしきろん 園う那
晩よのや那 漢よらん 律一の欠
風くちの ねもくくして一里東くろなり
秋まきくくくくふまきくくく ねの雲
くくくくくくくくくくくくくくく

廿二 尾

春理

立六

昌凡

淡輝

倭風

橋井

黄花菴全

ねむくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
海山のふたをきりくくくくくく

若狹

車牛

豊后

机山

越前

仙舛

園子くく菴を 藤くくくくくく
夏まきの ねくくくくくくくく
みくくくくくくくくくくくく
まきのまきくくくくくくくく
みまきのまきくくくくくくくく
木ぬのくくくくくくく 秋ぬか菴
そのねくくくくくくくくくくく

堺

李山

讃岐

宗徳

ワカヤ

時雨雄

全

鬼水

全

斗尺

河内

蓋澄

備后

蔵六

花屋菴全

あくくくくくくくくくくくく
あくくくくくくくくくくくく

ワカヤ

雪丈

巴龍

廿三

志望の山も程葉あつらんあまらんと
 大島ははつひのそとをあむ少々のが
 田子鳥鳴くしやうや藤かつ
 舟うつりりり 嶋岬も生れりり
 笑ひまうてこひひしうたうぬ踏系
 山伏々山うねるたり星は秋
 荏妻や紫ふぬるひ聾一の里
 暮天そとひしうま味あり松屋集
 下宿や荏生るる 糸とらぬ

月夜菴全

糸つらも音ふるるるて梅の志
 海もや乾くふるるてまのあ
 ちとあうりて 霞うね眼うね
 有ぬや杜さんうまらふねる
 冷るや霞あうりまら 西也人
 あしと人も出まらうり露のあ
 帝のふらやひま海うて秋のあ
 貴人の少深ををぬまらうり
 竹の極のさうらふまらうり生尾

井眉菴全

尼 竹雅
 大和 芳雀
 大和 一秋
 一秋 板里
 板里 波外
 波外 芳雀
 芳雀 一九
 一九 歌鳥
 歌鳥 卜隣
 大和 可亮
 大和 東后
 大和 倭風
 伊与 其梅

作更らむらうのしも登る
世路ふきまや舟もれを乃宿
さうらうさうのしも登る時雨
松伝まきまやしとれ乃鳥あれ
美をらう海路もるのしも登る
ちののしも登る水の雲
一きくはくやまのしも登る秋
ゆく丁のあも雨もれを乃宿
釣人のしも登る舟もれを乃宿
かゝるく舟もれを乃宿

尾張 泰里
士朗

亦有

月底

梅間

晋天

蓮生の秋の大ききまよはし
舟もれのしも登る舟もれを乃宿
大なるの舟もれを乃宿
やうらうのしも登る舟もれを乃宿
ゆる星の舟もれを乃宿
垣いとめ宿も四舟乃草の雨
梧の葉の二舟乃舟もれを乃宿
らんを舟もれを乃宿
あかす舟もれを乃宿
桐の舟もれを乃宿

蒼北

尾全

定雅

土卵

梅價

雪雄

若夢

文鶴

管鳥

勢きまむ舟のつらり川を
海をゆく幸深にやゆまのや
海芽生や後晴りてこまの境あり
つらめし月々忘れゆくふねちり
一番のこものさくまきとさるる
り人よとく志をこめて夕に
赤ちりし夕山さるれしこまを
えつとねし暮をこめてさるる
雪の干よつねとけりぬ結あり
うけおの後しむちりみその舟

井眉
三火
木徳
舟六
新測

山一登りて夕の目了はく熱柿
からむまじりあさるる夕より
廻りてしものしめらなりとめき
く一月やさるるまきし美
猫の意あふ秋うちりし衣たり
まきしや舟のちり暮るる
ろくしふむらさねもやふ
小角力乃幣はまきの
まぬをとおのうおしりてつらり

公路
矩随
釣冠
木尚
檉堂
未耜
篤三
雄剛
乙二

山うけの~~~~か~~~~や夕ちりり
 澄きくや怪るゝた乃かもの水
 ~~~~~の途~~~~もや~~~~ぬ~~~~木~~~~  
 はひとまて布~~~~人の故きうね  
 秋の秋の神~~~~お木へて~~~~  
 清佛るや宝より~~~~  
 後の夕や~~~~と~~~~  
 八月の秋~~~~似~~~~や~~~~  
 木の~~~~あ~~~~よ~~~~  
 ~~~~~さのあ~~~~  
 アキ 玄怪
 イヨ 静山
 アハ 夷柏
 十カキキ 祥木
 フニコ 月化
 切磋
 頓丘
 佛水
 又キ 玄峰
 三ツカ 里草

大坂書林鹿島献可堂藏版目録

七才子詩集 小本 一冊

發蒙書東式 三冊

同 掌故 三冊

傷寒五法 五冊

同 註解 二冊

茶道七事式 二冊

同 國字解 二冊

町見辨疑 西川氏 五冊

同 七律解 二冊

三界一心記 一冊

詩法授幼抄 小本 一冊

將棊指覽抄 小本 二冊

絶句律平仄位置圖

農家心得草 一冊

斧介集 詩歌之書全 一冊

心歌芳分船 一冊

詩對類語 全 一冊

勝地百益 二冊

詩家法語 全 一冊

書目録

伊勢参宮名所志 六冊

同 註解 二冊

同 六窓抄 三冊

同 國字解 二冊

同 盆石圖式 二冊

同 七律解 二冊

同 茶湯心 一冊

詩法授幼抄 小本 一冊

同 農家心得草 一冊

絶句律平仄位置圖

同 心歌芳分船 一冊

和歌相火桶 二冊

新元法 月漢画 一冊

在野翁集 二冊

同拾遺 二冊

其角新集 二冊

同元集 四冊

貞徳紅梅千句 二冊

日 家集 五冊

傾門日遊句 一冊

芭蕉及古文 二冊

津六 雅文消息 一冊

半化坊菰白集 二冊

撰長七劫集 一冊

月のおとよめ 一冊

試七部をよせて 一冊

和歌相火桶

新元法

在野翁集

同拾遺

其角新集

同元集

貞徳紅梅千句

日 家集

傾門日遊句

芭蕉及古文

津六 雅文消息

半化坊菰白集

撰長七劫集

月のおとよめ

俳諧小づち 一冊

同季歌 二冊

芭蕉油筆紙 一冊

同小外 一冊

同松楓抄 一冊

俳諧の道 二冊

日新 二冊

日流 二冊

俳諧考 二冊

同源川 一冊

同新源川 一冊

同二人文庫 一冊

同百家句選 一冊

俳諧の道

日新

日流

俳諧考

同源川

同新源川

同二人文庫

同百家句選

俳諧の道

日新

日流

俳諧考

同源川

同新源川

同二人文庫

同百家句選

水鏡句集 一冊

蘇村発句集 一冊

七河発句集 一冊

柳菴句集 一冊

西賢集 一冊

俳諧分載 一冊

数言句集 一冊

季家桐火桶 一冊

片香片紙 一冊

同二歌四集 一冊

水鏡句集

蘇村発句集

七河発句集

柳菴句集

西賢集

俳諧分載

数言句集

季家桐火桶

片香片紙

同二歌四集

水鏡句集

蘇村発句集

七河発句集

柳菴句集

西賢集

俳諧分載

数言句集

季家桐火桶

片香片紙

十六秋仙全冊
謙仲寺の仙の撰三十人
仙傳のついでに
仙の撰のついでに

多の独けの
上のまじりの中
おのれをたしめし
おのれをたしめし

俳諧四季文集
井眉著
三冊
麦水菴美持良の著
上り附法正の著
文一しおのり
くしおのり

繪本武將勳功記
十二冊
宝町教おろし
六冊
法橋玉山画
孝女傳
武者揃
武者繪繼
三冊

古今
俳諧
四季類題集
井眉著選
芭門とついでに
おのれをたしめし
おのれをたしめし

中井畫江画
全部五冊
大津り藤州の
名画百景山川
名画百景山川

盤後禪師法語
全巻二冊
行状法を著
おのれをたしめし
おのれをたしめし

月白引
全巻一冊
林平の撰
おのれをたしめし
おのれをたしめし

將軍家譜
全部十冊
比道春著
ひらきま画

南賞佳来
長去海堂
筆
年中かれ
日字

極浪花
二冊
全坊月次候
おのれをたしめし
おのれをたしめし

折句いろは引
日乃志る人
日大全
日志ほり
日類題
日趣向帳

折句式大全
前句三五志
日画朗詠
日明題選

前句袋
前句小笥
前句選
前句大全
前句手鑑

興御書繪技
全巻一冊
おのれをたしめし
おのれをたしめし

月嘸啼猿
全巻一冊
おのれをたしめし
おのれをたしめし

俳諧七部集増補

芭蕉袖草紙

花屋菴奇洲宗直校
小本全部二冊

試去ハ芭蕉翁一代の流傳を叙す
門人おのれをたしめし
俳諧七部集のついでに
俳諧七部集のついでに



